

REMIX

ハイブリッド経済で栄える
文化と商業のあり方

ローレンス・レッシング 著 山形浩生 訳

翔泳社 2010年



仲正 昌樹 (なかまさ・まさき)

推薦者

金沢大学人間社会研究域法学系教授。1963年広島県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程修了。学術博士。専門は政治思想史。主な著書は、『「不自由論」(ちくま新書)、『集中講義! アメリカ現代思想』(NHKブックス)、『なぜ「話」は通じないのか』(晶文社)など。

近年、インターネット上での映像・音楽作品、オンライン・ゲームなどの「知的財産権」の問題が注目を集めている。ネット上で利用できる様々な商業的価値のある情報を、無断で「コピー」することは、違法と見なされ、それを禁止する法律が整備され、違法行為を技術的に不可能にする各種のアーキテクチャも開発されつつある。

アメリカのICT関連法の第一人者であるレッシングは、そうした「知的財産権」概念の無制約的な拡大傾向に警鐘を鳴らす。私たちの全ては、自分が属する文化の中で、様々な人の知的・芸術的活動を模倣しながら、自分の創造性を培ってきた。私たちの大衆文化は「コピー」を通じて形成されてきたし、プロのアーティストやクリエイターも「コピー」の恩恵を受けてきたはずである。

ICTは、各人が様々な作品を「コピー」し、それらに変形を加え、モンタージュすることで、独自の創造性を開花させることのできる可能性を飛躍的に増大させた。不特定多数の人が共同で開発し、みんなで自由に使える「コモンズ」も増えている。しかし、アメリカのコンテンツ産業の中には、絶えずネットを監視し、無名の市民の日常を記録した映像、あるいは小さなアマチュア芸術グループのパフォーマンスの一部に、自社が著作権を持つ作品がほんの一瞬でも登場すれば、すぐに法的手続きを取ろうとするところがある。それを、商売にしている人たちもいる。そうしたケースが次第に増加していき、アメリカの法文化に定着すれば、「コピー」を組み合わせることで新しいものを生み出す、「リミックス文化」が衰退し、コンテンツ産業自体の首を絞めることにもなりかねない。

レッシングは、レコード、映画、ラジオ、TV、ケーブルTV、インターネット…というICTの発展史の中での「コピー」の問題の変遷を振り返ったうえで、商業経済と共有経済が相互にプラスの影響を与え合う「ハイブリッド経済」を促進すべきだと主張

する。そのために、権利の所在・管理は明確にしたうえで、一定の明示的なルールの下で誰でも自由に「コピー」できるようにすること、ファイル共有を合法化することなど、著作権法の専門家らしからぬラディカルな提案をしている。

「資本主義vs.社会主義」あるいは「自由主義vs.共同体主義」というありがちの二項対立図式を離れて、ICTと文化的創造、経済の三者関係について考えるための新たな視座を与えてくれる、非常に刺激的な著作である。CEL

Books: editor's choice

- 『考えないヒト—ケータイ依存で退化した日本人』正高信男 中公新書(2005)
- 『高齢者へのICT支援学—その心理と環境調整』小川晃子 川島書店(2006)
- 『デジタルネイティブの時代』木下晃伸 東洋経済新報社(2009)
- 『デジタルネイティブ—次代を変える若者たちの肖像』三村忠史、倉又俊夫、NHK「デジタルネイティブ」取材班 日本放送出版協会(2009)
- 『ネオ・デジタルネイティブの誕生—日本独自の進化を遂げるネット世代』橋元良明 ダイヤモンド社(2010)
- 『アジアICT企業の競争力—ICT人材の形成と国際移動』夏目啓二 ミネルヴァ書房(2010)
- 『ポスト・モバイル—ITとヒトの未来図』岡嶋裕史 新潮新書(2010)
- 『未来を創る情報通信政策—世界に学ぶ日本の針路』国際大学グローバル・コミュニケーション・センター NTT出版(2010)
- 『ソーシャルネイティブの時代—ネットが生み出した新しい日本人』遠藤諭 アスキー新書(2011)
- 『メディアと日本人—変わりゆく日常』橋元良明 岩波新書(2011)
- 『キュレーションの時代「つながり」の情報革命が始まる』佐々木俊尚 ちくま新書(2011)
- 『つながり進化論—ネット世代はなぜリア充を求めているのか』小川克彦 中公新書(2011)
- 『ネット時代のパブリック・アクセス』金山勉、津田正夫 世界思想社(2011)
- 『シルバーICT革命が超高齢社会を救う』小尾敏夫、岩崎尚子 毎日新聞社(2011)
- 『明日のコミュニケーション—「関与する生活者」に愛される方法』佐藤尚之 アスキー新書(2011)
- 『クラウドの未来—超集中と超分散の世界』小池良次 講談社現代新書(2012)
- 『ビッグデータ時代のライフログ—ICT社会の“人の記憶”』曾根原登、宍戸常寿、安岡寛道編 東洋経済新報社(2012)
- 『ICTの進展と情報活用能力—変容する組織と個人の関係性』小豆川裕子 白桃書房(2012)
- 『動員の革命—ソーシャルメディアは何を変えたのか』津田大介 中公新書ラクレ(2012)
- 『ビッグデータの衝撃—巨大なデータが戦略を決める』城田真琴 東洋経済新報社(2012)